平成２７年度　糸魚川市社会科部　活動報告

部長　猪又　光明

１　研究主題

「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科学習」

２　研究の概要

今年度は、糸魚川市教育研究会社会科部の研修として、糸魚川市立磯部小学校の公開授業を行った。研究主題を受け、児童が実感のもてる学習活動に配慮し、児童が主体的に取り組める課題設定のもと、対話を通して思考を深め、これからの自動車生産について構想をもつ授業を目指した。

３　研究の実際

○　授業公開・協議会，全体会指導

期　日：平成２７年１１月１１日（水）　　授業者：小林　保浩　教諭

会場等：糸魚川市立磯部小学校

単元名：５年　社会科「自動車づくりに励む人々」

＜授業の概要＞

授業は、消費者の様々なニーズを受けて自動車作りがなされてきたことを知り、自ら開発したい自動車づくりの構想を練ることを主眼として公開された。

展開の視点として、「対話を生み出すための課題設定」「対話を活発にする支援の在り方」の２点を掲げ、児童の学習活動を支える基盤とした。

はじめに、児童の主体的な学習活動を促すために、「今後どのような自動車を誕生させたいか」という課題を提示した。児童は、最近の自動車技術を映像で視聴することで、自動車の性能が改良されている事実を実感として捉え、その理由を様々な視点から考えた。次に、開発したい自動車を構想させる際に、自動車を運転する人の意見・要望が記された保護者アンケートの結果を提示した。児童はアンケートの意見も受け止めながら、環境、利便、安全等の視点から自分の考えをワークシートに書き込んだ。そして、個人の考えをもとにグループで考えを出し合い、開発したい自動車について話し合った。

＜協議会の概要＞

協議会では、学習課題が子どもたちの主体性を引き出す課題であったことや、対話を通して率直に意見交換がなされていたこと、保護者アンケートを受け止めた書き込みが見られたことを評価する声が多く聞かれた。一方で、開発したい自動車を構想する際に、教師が示した資料は必要なかったのではないかという指摘や、グループでの話し合いでは、一番良い考えのものを選ぶ方法もあった等の意見も出された。その後、研究主題に基づき、各校の実践交流を行った。学校や児童の実態に応じ、さらに実感をもたせるための様々な工夫を行っていく必要性を確認した。

○　全体会指導

糸魚川市教育委員会こども教育課指導主事 後藤孝一様からご指導をいただいた。対話活動の活性化について①共同性②異質性③準備性④成果の４条件が必要とのご指摘があった。また、学びの実感をもたせるために、自ら主体的に学ぶ学習を展開し、児童の気付きや発見、共感を重視するよう力説された。社会科部員が各自の実践を振り返り、指導の在り方を見直すよい機会となった。

４　成果と課題

児童が主体的に取り組める課題設定や映像等による実感の持たせ方の工夫、対話を通した話し合い活動の工夫等が、児童の学習意欲を高め、思考を促すことが確認できた。来年度も授業公開を予定している。公開を依頼する学校との連携を密にして、研究をより深めていきたい。